

令和3年7月25日
馬木小学校再編協議会
兒玉眞之
佐佐木瑠美子

小学校再編（統合）に関する実情調査について（報告）
（一部訂正版）

令和3年7月22日、統合により小学校が無くなった雲南市大東町久野地区の状況調査のため、同地区の雲南市久野交流センターに伺い、事務局長の福間さんと集落支援員の長妻さんから2時間ほどお話を聞くことができました。その概略は下記のとおりです。

記

1 久野地区（10自治会）は、平成13年までは中学校、小学校および幼稚園が近接していて一貫校的な交流もあった。当時の久野地区の人口は約600人であった。

同年、生徒数30人の中学校が大東中学校に統合されたが、それに至るまでの意見は分かれ、かなり紛糾した。地域が寂れるとする反対意見が強かったが、中学生くらいになればやむを得ないだろうということになり、久野地区からPTA役員を出すことと、スクールバスを運行する条件で承諾した。

そのときの大東中学校は新設であり、吸収される訳ではないというメンツも立ったのだろう。

2 その後、平成26年に今度は小学校が統合されることとなった。当時の久野地区の人口は560～570人であり、生徒数は15人であった。複式であり、多いと5人の学年もあったが、0人の学年も続いた。

契機となったのは、それまでに幼稚園が廃止されて大東に通園せざるを得ない状態になっていたところ、園児2人を抱えた夫婦が大東に移住して、来年度の1年生は1人だけという事態が生じ、このままでは1人だけで久野小学校に行かざるを得ないこととなる子の親が住所を移転してでも大東小学校に行かせたい意向を示したため、そうなると、0人学年が続くことになってしまうので、もはや仕方がないと統合を承諾するに至った。

3 現在の久野地区の人口は482人である。この間の人口減は、学校等の消滅が影響しているのではなく、自然減だと思う。

現在の中学生は4人で、スクールバス通学である。小学生は10人であり、この10人と幼稚園児1人の11人が別の専用スクールバスで登校・登園している。大東小学校までの最長道程は17kmであるが、久野谷は一本道なので乗車時間は30～40分である。下校は、学年によって時間が異なるため、2便出る（以前は3便）。帰りの乗客は1人のこともある（普通免許のマイクロバスだろう。）。

久野は上下関係が鷹揚な地区であり、久野組の生徒達は通学も結構賑やかで楽しいらしい。

なお、久野地区の児童の放課後児童クラブであるが、大東小に隣接する放課後児童クラブ（通称「チャレンジ」）を利用している。夏休みなど長期休業期間限定の利用児童も同様で

ある。帰りは原則、保護者が迎えに行っている。久野小があったときは校舎内の空き部屋で放課後児童クラブを実施していた（この建物も近々取り壊しの予定）。

- 4 統合前と現在とでは、人口が減ったこともあるが、やはり子どもの影が見えないことが寂しいというのが地区全体の実感だと思う。

そのような地区の活性化策として、市の指定管理団体として久野地区新興会を結成し、会長である福間さんが交流センター長を務めている。足下の久野川の河川プールを管理したり、地区に花桃や桜を植えて環境をアップしたり、様々な地域活動の拠点としている。(株)かみくの桃源郷を設立し新興会が株主となって経営しキャンプ客などを集めている。例年の利用者は1万人、去年はブームもあってか1万6000人を数えた。ふるさと納税の返礼品としてコテージ利用券を発行したりもしている。

ただ、地域活動の協力者・参加者は固定化しており厳しい面もある。昨年、地域の繋がりに関するアンケートを実施したが、子ども同士の繋がりを必要だとする子ども達の意見は半々、親同士の繋がりについても全体では半々であるのに対し、三十代以下だと必要性を感じないとするのが7、8割に上った。夏休みなどに交流センターで久野の子どもを集めて催し事をやるのだが、親らは関心が無く、子どもだけ預けてさっさと行ってしまふ。地区のPTAも無くなった。

それでも、子どもに関しては、三郡山山頂に周辺の小学校区の生徒（亀嵩、山佐、比田など）を集めて交流会を開いたり、地区運動会で、中学生を役員にして仕切らせるなどしている。

- 5 地区出身者で卒業後に帰ってくるのは、6、7人に1人くらいのものである。しかし、一方で、Iターン者も目立つようになった。下久野地域に4組ほど若い人が、子連れ（小学生計2人）で来ている。農産物加工、自然農、林業などに関心を持ち、Iターン者の集まりを企画したりイベントを催している。地域との関わりは、それぞれに思いがあるので、無理に押しつけるようなことはしていない。それでも、皆さん自治会には参加してくれている。

とにかく、久野地区は山も川もあり、ロケーションが素晴らしい（長妻さんの思い）。これが売りになって人が来てくれたらよい。

令和3年8月4日
馬木小学校再編協議会
兒玉眞之

小学校再編（統合）に関する実情調査等について

- 1 令和3年7月下旬に雲南市および安来市の小学校の実情について、各交流センターから下記のとおり情報（電話）を得ました。

記

(1) 雲南市阿用小学校

生徒数51名 1年生7名（男子3，女子4） 2年生11名（男子5，女子6）
3・4年生16名 複式（3年男子5，女子6，4年男子5，女子0）
5年生7名（男子3，女子4） 6年生10名（男子1，女子9）

以前、行政（旧大東町？）主導で統合を進めようとしたため、全地域が反発し紛糾した。その結果、行政は、地元からの要望がない限り、統合しない方針に変わった。現在、地域住民・保護者からの統合要望は出ていない。

(2) 同市海潮小学校

生徒数64名（令和2年度） 5・6年生複式

再編の要望は地域住民・保護者から出ていない。中学校については、松江方面に流れるなどして人数が減ったため地区から統合要望が出始めてはいる。

(3) 安来市比田小学校

生徒数31名 1・2年生，3・4年生，5・6年生複式

平成16年に東西の比田小学校が合併して現在に至る。統合の話は出ていない。

(4) 同市布部小学校

生徒数18名 1・2年生，3・4年生，5・6年生複式

平成16年に西谷小学校を吸収して現在に至る。学童保育の関係から若干名が広瀬小学校に流れたが、それ以外の移動はない。現在、統合の話は出ていない。

(5) 同市山佐小学校

生徒数10名 1・2年生，3・4年生，5・6年生複式

統合の話は誰からも出ていない。ちなみに、島大の有馬名誉教授から「「生きる力」をつけることが大事だ。大きい学校のほうが鍛えられるというのは幻想に過ぎない」と聞いたし、同じく作野教授からも「小さいほうが学びに適した場所だ」とも聞き、自信を持っている。

また、安来市内からこの地域に魅力を感じ、Iターンを希望している若い人もいる。

なお、馬木地区は、近年子どもが減り、初めて複式を経験することになって、保護者にも混乱・動揺があるのだと思う。

- 2 実情調査した感想について

各小学校とも、十数年前に統廃合を経験した市町にあること、安来地域小学校にあっては、再編想定先の学校まで距離があること、地域の存続にかかわるとの住民・保護者の一致した危機意識があることから、重ねての再編の動きはないようである。

また、各小学校に共通するのは、住民がその地域を愛し、地域の歴史と伝統に自信と誇りを持ち、一体感が窺えることである。